

資格検定 NEWS



危険物取扱者免状を活かす

免状の種類		取扱いできる危険物
甲種		全種類の危険物
乙種	第1類	塩素酸塩類、過塩素酸塩類、無機酸化化合物、亜塩素酸塩類、臭素酸塩類、硝酸塩類、よう素酸塩類、過マンガン酸塩類、重クロム酸塩類、などの酸化性個体
	第2類	硫化りん、赤りん、硫黄、鉄粉、金属粉、マグネシウム、引火性個体、などの可燃性個体
	第3類	カリウム、ナトリウム、アルキルアルミニウム、アルキルリチウム、黄りんなどの自然発火性物質及び禁水発生物質
	第4類	ガソリン、アルコール類、灯油、軽油、重油、植物性油類などの引火性液体
	第5類	有機過酸化物、硫酸エステル類、ニトロ化合物アソ化合物、ヒドロキシルアミンなどの自己反応物質
	第6類	過塩素酸、過酸化水素、硫酸、ハロゲン間化合物などの酸化性液体
丙種		ガソリン、灯油、軽油、重油など

2学期の11月27日には本校も会場の一つとして、第2回目の岡山県危険物取扱者試験が実施されます。この試験は1年生も多数の受験が期待されますが、そもそも危険物取扱者とはどのような資格なのでしょう。

<危険物取扱者の役割>

日常生活に欠かせないガソリンや灯油などの危険物は、火災発生の危険性が高く、いったん火災になると急速に拡大し、大規模火災となる可能性があります。危険物を多量に取り扱う施設では、十分な知識と技術を有する「危険物取扱者」が取り扱うことが消防法で義務られています。

<危険物取扱者の業務>

甲種危険物取扱者は全種類の危険物、乙種危険物取扱者は指定の類の危険物について、取扱と定期点検、保安の監督ができます。

なお、甲種もしくは乙種危険物取扱者が立ち会えば、危険物取扱者免状を有していない一般の人でも取扱と定期点検を行うことができます。

<必要とされる主な業種>

石油化学工業、自動車整備工場、食品化学工業、塗料工業、医薬品工業、紙・パルプ工業、ガソリンスタンド、燃料店など

コントロールできることに意識を集中

五輪の競泳米国チームは、メダルの獲得目標を公表しないという。

米専門誌スイミングワールドのブレント・ルートミュラー編集長は「ここの一番で最高のパフォーマンスを発揮する考え方を、ジュニア時代から教え込まれているからだろう」と見る。

その考え方とは、いたってシンプル。自らコントロールできることに意識を集中する、というものだ。相手によって結果が変わり、自分でコントロールできないメダルの数や色が個人の目標の1番目に意識された時「競技力が落ちる可能性がある」とも話す。

五輪という最高の緊張の中、平常心を保ちレースを展開するのは難しい。どの国の選手であっても、選考会でのタイムを上回ったら、それは素晴らしいパフォーマンスとして特に大きな拍手を送りたい。

(望月秀記 元日本水連広報委員)

平成28年8月7日朝日新聞
<望月秀記の目>から一部引用

